

令和5年産 主要農作物の作柄と畜産物の生産動向

作物名	項目	作付面積 (ha)	収穫量 (見込) (t)	10a当り収量 (見込)		作況指数等	品質・規格等に関するコメント(特記事項)					
				kg	kg							
水 (主食用)	稲	令和5年	82,200	475,900	579	559	104 106	農林水産省 12月12日公表	米 穀：作況指数は104のやや良となったが、生産現場ではそこまでの収量はないという声もある。品質についても、全道的に高たんぱく傾向で、シラタ等の高温障害の発生も見られる。 (低刈バリ率等：12月25日現在) 4年 5年 ゆめびりか(基準品) 97% 47% ななつぼし(低刈バリ) 71% 5%			
		(前年)	82,500	487,600	591	—						
		(対比)	100%	98%	98%	—						
小	麦	令和5年	134,500	698,800	520	516	101	本会品目課調べ 推定値	小麦：最終入庫については、播種前契約数量の104%となる613,329 ^ト となる見込み。秋まき小麦で当初契約数量を上回る見込み。一方で春播き小麦は当初契約数量を下回る見込み。品質値はおおむね基準値に収まり良好。一部春播き小麦で低FNが発生。			
		(前年)	130,600	614,200	470	—						
		(対比)	103%	114%	110%	—						
馬鈴しょ 生食・加工用		令和5年	27,259	1,041,180	3,820	3,427	111	本会品目課調べ 推定値	生食・加工用：高温の影響を受けながらも順調な生育となり、昨年産、過去5年平均を上回る収穫量、商品化量となる見込。			
		(前年)	27,413	975,210	3,557	—						
でん粉用 (専用品種のみ)		令和5年	13,944	535,200	3,838	3,872	99	本会品目課調べ 推定値	でん粉用：全道的に8月以降の高温の影響から玉数は多いものの、肥大が進まず収量は平年並～やや劣る見込。特にオホーツク地区は猛暑の影響で収量およびライマン価ともに平年を下回っており、操業前の当初計画数量を大幅に下回る見込。 【原料受入ライマン価】 【系統でん粉生産見込数量】 本年産 18.0% 本年産 141,500 ^ト (前年産最終 19.2%) (前年産最終 146,400 ^ト) ※系統でん粉生産見込数量は、専用品種外も含む			
		(前年)	13,840	550,800	3,980	3,868						
豆	大豆	令和5年	45,400	122,730	270	239	113	本会品目課調べ 推定値	大豆：断続的な降雨により収穫適期を逃したことから全道的に、しわ・皮切れ・汚粒が散見され、品位については平年を下回る見込み。			
		(前年)	43,200	114,840	266	—						
	(対比)	105%	107%	102%	—							
小豆		令和5年	20,800	50,118	241	256	94	本会品目課調べ 推定値	小豆：播種後順調な生育をし、9月上旬に莢は仕上がっていたが、9月の高温により青莢の状態が続き収穫が遅れた。さらに、虫害の発生や断続的な降雨により反収および品位は平年を下回る見込。			
		(前年)	19,100	49,860	261	—						
(対比)	109%	101%	92%	—								
菜豆		令和5年	5,440	11,412	210	189	111	本会品目課調べ 推定値	菜豆：金時類について、主産地十勝では高温の影響を受け小粒傾向と色ムラの傾向が見られる。大手亡については小粒傾向や汚粒が散見される。			
		(前年)	5,740	11,592	202	—						
(対比)	95%	98%	104%	—								
玉ねぎ		令和5年	12,293	651,510	5,300	5,630	94	本会品目課調べ 推定値	玉ねぎ：肥大型の高温により、例年より肥大が進まず平年を下回る収量となる見込。また、生食数量は、直近の不作年である令和3年産に近い。※作付面積は、降雪による廃耕分を除く玉ねぎ規格内比率(11月末累計) 2L L大 L M (単位：%) 本年産 8.3 47.7 35.2 8.8 前年産 21.5 52.9 21.1 4.5			
		(前年)	11,861	712,580	6,010	—						
		(対比)	104%	91%	88%	—						
てん菜		令和5年	51,081	3,406,700	6,670	6,680	100	日本ビート糖業協会調べ 推定値	てん菜：生育期間中の気温が総じて平年よりも高く推移し、ha当たりの収量は平年以上が見込まれる一方、褐斑病の発生が多く、根中糖分の低下が見られる。 日本ビート糖業協会調べ 5砂糖年度見込 産糖量 455,800 ^ト 4砂糖年度実績 産糖量 562,341 ^ト			
		(前年)	55,182	3,544,512	6,423	—						
		(対比)	93%	96%	104%	—						
生乳								生乳：生産抑制の取組に加え、猛暑の影響により前年を下回り推移している。 (単位：ト)				
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計	
		R5実績	329,129	345,425	334,929	336,711	321,601	310,707	319,092	308,706	2,606,299	
		R4実績	347,412	361,618	347,305	353,076	346,866	330,678	334,159	319,067	2,740,180	
		前年比	94.7%	95.5%	96.4%	95.4%	92.7%	94.0%	95.5%	96.8%	95.1%	